

36. 高気圧酸素療法が奏効した慢性下肢リンパ浮腫 3 例

山岡章浩*¹⁾ 有川和宏*¹⁾ 堂籠 博*¹⁾
 松元仁久*²⁾ 増田 宏*²⁾ 森山由紀則*²⁾
 (*¹⁾鹿児島大学医学部附属病院救急部)
 (*²⁾ 同 第二外科)

四肢の慢性リンパ浮腫には保存療法が優先され、弾性ストッキングの着用、患肢マッサージなどを行うが、難治である、今回我々は、既存の保存療法が無効であった下肢リンパ浮腫 3 例に対し、高気圧酸素療法(以下 HBO; 2ATA-60分間、通常週 5 回)を行い、著効したので報告する。

症例はいずれも、下腿皮膚萎縮や潰瘍形成なく、チアノーゼを認めなかった。超音波検査あるいは骨盤下肢 CT 検査で深部静脈の開存を確認した。

【症例 1】15歳女性、左下肢浮腫。10歳時、一輪車で転倒し左膝を強打、膝関節炎を繰り返し、膝蓋骨の変形を来した。平成 9 年 9 月から左下肢の腫脹を認め、10月当院へ紹介された。大腿径(cm) 右36.5, 左42。下腿径(cm) 右31, 左40.5。左足背を中心に蜂巣織炎を認めた。抗生剤投与とともに、HBO を行った。施行22回で下腿径右30, 左33と有効であった。

【症例 2】23歳男性、左下肢浮腫。2年前交通事故で左膝蓋骨骨折した。受傷 2 週間後から左下腿が腫脹、次第に悪化した。平成10年 7 月当院へ紹介された。左下腿の腫脹、象皮化および色素沈着を認め、蜂巣織炎を併発していた。下腿径の左右差著明、左40cm。施行30回で径34.5cmと減少し、歩行可能となった。

【症例 3】57歳女性、両下肢浮腫。4年前、子宮筋腫で子宮摘出術を受けた。平成11年 4 月開頭術後 2 週目から両下肢腫脹を認めた。2ヶ月間症状改善みられず、紹介された。大腿径(cm) 右40, 左42, 下腿径(cm) 右37, 左40。施行 8 回で下腿径右35, 左36, 施行20回で右33, 左34.5と減少した。いずれの症例も、HBO 開始 2 週間後程度から改善傾向がみられた。

37. 高気圧酸素療法 (HBO) が奏効した同種骨髄移植後出血性膀胱炎の 2 例

矢部みはる*¹⁾ 濱崎祐子*¹⁾ 松本正栄*¹⁾
 服部欽哉*¹⁾ 保田由喜治*¹⁾ 矢部普正*¹⁾
 加藤俊一*¹⁾ 南壮太郎*²⁾ 宮北英司*²⁾
 河村信夫*²⁾ 小森恵子*³⁾ 山本五十年*³⁾

(¹⁾東海大学医学部小児科)
 (*²⁾ 同 泌尿器科)
 (*³⁾ 同 付属病院救命救急センター)

同種骨髄移植後早期より出血性膀胱炎が持続し、HBO が奏効した 2 症例を経験した。

【症例】1) 8歳男児。ALL, 中枢神経再発, 骨髄再発後第 3 寛解期に Bu4mg/kg×4 日, CY 60 mg/kg×2 日, VP-16 60mg/kg×1 日の前処置後, HLA 一致の非血縁ドナーより骨髄移植を施行した。+14に生着を確認し、急性GVHDは grade 0であった。+4より肉眼的血尿がみられ持続膀胱洗, マーロックス及び PGE1の膀胱内注入などの処置を行ったが+78と+119に膀胱タンポナーデを発症し、緊急開腹にて血腫除去と膀胱瘻造設術を行った。両側鼓膜切開後, +135より23日間に計14回の HBO を施行した。HBO 開始 2 週目より肉眼的血尿はほぼ消失し、2ヵ月目には顕微鏡的血尿も消失した。2) 6歳男児。副腎白質ジストロフィーにて Bu4mg/kg×4 日, CY50mg/kg×4 日, ATG2.5mg/kg×4 日の前処置後 HLA 一致の妹より骨髄移植を施行した。+14に生着を確認し急性GVHDは grade 0であった。+4より肉眼的血尿と膀胱炎症状がみられ持続膀胱洗, マーロックス及び PGE1の膀胱内注入などの処置を行ったが、全く改善みられず+44より36日間に計25回の HBO を施行した。HBO 開始 5 週目より肉眼的及び顕微鏡的血尿はほぼ消失した。

【結語】HBO の出血性膀胱炎に対する作用機序は明らかではないが、移植後早期に発症し最重症の症例に対して、HBO は積極的に施行する価値があると思われた。